

平成 28 年 3 月 28 日

水戸市新たな市民会館等施設建築物設計候補者選定に係る 公募型プロポーザルの選定結果及び評価委員会議講評について

水戸市 市民協働部
文化交流課 新市民会館整備係

1 はじめに

昭和 47 年 12 月に開館した水戸市民会館は、東日本大震災により施設が破損したことなどから、使用を停止しました。その後、市民会館の安全性の確保と早期再開に向けて、経済性・機能性・耐久性・災害時の安全性、新市民会館の整備によるまちの活性化等を総合的に検討した結果、泉町 1 丁目北地区に移転し、市街地再開発事業により整備することを決定しました。

今回の整備予定地は、本市の文化水準を高めるとともに、国際的な視野に立った芸術文化の発信に寄与してきた水戸芸術館の隣接地であり、この地に新市民会館を整備することにより、市民の幅広い文化活動を促進し、より市民に開かれた芸術文化の拠点を形成することが可能となります。

平成 27 年 3 月には、市議会の特別委員会での審議をはじめ、各種団体ヒアリング、市民アンケート等の意見を踏まえるとともに、意見公募手続を経て、水戸市新たな市民会館整備基本計画（以下「整備基本計画」という。）を策定しました。新市民会館の整備を進めるに当たり、「多様な人々の交流と多彩な文化が織りなす、ひと・まちが輝くステージ」という基本理念をはじめ、3つの基本方針、施設計画、敷地計画等について、基本的な考え方をまとめました。

整備基本計画に基づいた事業を推進するためには、整備基本計画の理解度が高く、適切な評価・分析に基づいた提案設計ができ、発注者（泉町 1 丁目北地区市街地再開発準備組合）や本市の考え方に柔軟に対応できる豊かな創造力と知性、確かな技術力を持った設計者を選定する必要があります。

以上のことから、新市民会館等施設建築物の設計を委ねるにふさわしい適性を備えた設計者を選定し、本市から発注者に推薦するため、公募型プロポーザル（以下「本プロポーザル」という。）を実施しました。

2 選定経過及び結果

本プロポーザルでは、幅広い知識と専門的な技術を兼ね備えた「代表企業参加者」と、地域特性に精通した「市内企業参加者」をそれぞれ個別に評価し、代表企業最優秀者と市内企業最優秀者を選出することとしました。

評価に当たっては、客観的かつ公平・公正な選定を行うため、専門知識を持つ学識経験者からなる「水戸市新たな市民会館等施設建築物設計候補者評価委員会議」（以下「評価委員会議」という。）を設置し、参加者名を伏せたかたちで、二次にわたる評価を行いました。

(1) 評価委員会議の設置（平成 27 年 7 月 9 日）

評価委員会議は、下表の学識経験者で構成しました。

氏名	所属等
かいじま ももよ 貝島 桃代	筑波大学 芸術系准教授
もとすぎ しょうぞう 本杉 省三	日本大学 理工学部建築学科教授
かきうち えみこ 垣内 恵美子	政策研究大学院大学 文化政策プログラムディレクター教授
こま きたし 古瀬 敏	静岡文化芸術大学 名誉教授
いとう まさと 伊藤 雅人	三井住友信託銀行株式会社 不動産コンサルティング部審議役 環境不動産推進チーム長

(2) 評価の経過

ア 第 1 回評価委員会議（平成 27 年 7 月 26 日）

はじめに、水戸市長が、今回の事業の趣旨を説明し、続いて事務局から新市民会館整備の基本的な考え方、泉町 1 丁目北地区市街地再開発事業、中心市街地の現状についての説明を行い、評価委員に本事業の理解を深めていただきました。

次に、委員長に貝島桃代氏、副委員長に本杉省三氏を選出し、今後のスケジュールを確認するとともに、現地視察を行いました。

イ 第 2 回評価委員会議（平成 27 年 8 月 25 日）

新市民会館を整備することによる効果・イメージについて、評価委員の理解を深めるとともに、本プロポーザルの実施要領や評価方法などの協議を行いました。

ウ 第 3 回評価委員会議（平成 27 年 10 月 1 日）

前回に引き続き、本プロポーザルの実施要領の案について、協議を行いました。

エ 実施要領の公告（平成 27 年 12 月 1 日）

水戸市新たな市民会館等施設建築物設計候補者選定に係る公募型プロポーザル実施要領（以下「実施要領」という。）を公告しました。

また、本プロポーザルの参加者の理解を深めるために、水戸市長による基調講演をはじめ、商業関係者、演劇や映画等の市民活動家、高校生等によるパネルディスカッション及び実施要領の説明会を平成 28 年 1 月 11 日に開催し、約 200 名が来場し、市民の関心を高めることができました。

オ 第 4 回評価委員会議（平成 28 年 2 月 21 日）

一次評価を行いました。

はじめに、本プロポーザルへの参加資格や実施要領の規定に反する行為の確認を行い、続いて、評価の進め方について協議し、全ての技術提案書について、確認を行いました。

次に、代表企業について、整備基本計画や実施要領の理解度の高さ、まちを訪れる人々

を施設内へと自然にいきない、常になぎわっているような仕掛けづくりの工夫、水戸芸術館と相まった文化交流拠点の形成等を実現できる豊かな創造力と実現可能性などについて、6回にわたって評価・選考を行い、二次評価への参加資格者（以下「代表企業選出者」という。）として、5社を選定しました。

また、市内企業については、技術提案書に加え、地域特性や地域資源の活用及び設計共同企業体結成における自社の役割等に関する提案を考慮し、二次評価への参加資格者（以下「市内企業選出者」という。）として2社を選定しました。

なお、本プロポーザルへの参加者等については、下表のとおりです。

	参加表明書提出数	技術提案書提出数	二次評価への参加資格者数
代表企業	60社	53社	5社
市内企業	3社	3社	2社

カ 競争的対話方式の実施

評価委員会議は、一次評価を踏まえて、代表企業選出者に対して、次のとおり指摘事項を通知し、代表企業選出者は、当該指摘事項を踏まえて、二次評価用の資料（パワーポイント等）を作成しました。

番号	競争的対話方式（Competitive Dialogue）による指摘事項
029	<ul style="list-style-type: none"> ・ 劇場におけるもぎりのゾーニング。 ・ ギャラリーの幅の考え方と利用方法。 ・ 50号側のアプローチの考え方。 ・ 建物の防火区画。 ・ コストと構造の関係。
034	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の外観や全体の構成における提案の特色。 ・ 50号沿いでの商業施設確保要望があった場合の考え方。 ・ 屋外緑化の実現性への考え方。（メンテナンス方法、ランニングコストなど。）
054	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大ホール（機能や容量等）の考え方。 ・ 上階へのアクセス方法の方針。 ・ 搬入作業スペースに対するバックヤードの搬入の考え方 ・ 隣地への圧迫感に対する東側のファサードの考え方。
056	<ul style="list-style-type: none"> ・ 劇場におけるもぎりのゾーニング。 ・ 垂直動線の考え方。
068	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下の居住性。 ・ 搬入作業スペースに対するバックヤード（地階の荷物の搬入出で装置の組み立て等を行う場所）の搬入の考え方 ・ 搬入車両の復路進路の確保 ・ ホールを「まっすぐつながる街道（みと街道）」に使用する場合の運用方法。（イスの収納方法、車イス利用者や高齢者等のアクセスを含む）

キ 第5回評価委員会議（平成28年3月21日）

代表企業選出者に対する二次評価を行いました。

公開プレゼンテーション・ヒアリング形式で、技術提案書の内容や競争的対話方式による指摘事項への対応を説明するとともに、評価委員による質疑を行いました。

次に、技術提案書やプレゼンテーション・ヒアリングの内容を踏まえて、施設建築物の形状をはじめ、公共空間（サードプレイス）のデザイン、ホール、会議室、商業施設等の配置、運用方法、ユニバーサル・デザイン、環境設計への配慮、市民参加のあり方、地域性に配慮した景観、水戸芸術館や商業施設との連携など様々な視点から評価を行い、最優秀者と優秀者を選出しました。

ク 第6回評価委員会議（平成28年3月24日）

市内企業選出者に対する二次評価を行いました。

提案内容の説明と、評価委員による質疑を行い、提案内容、設計共同企業体に対する過去の実績や本事業における市内企業の役割、劇場ホール設計の経験の有無、会社内における意匠、構造、設備、積算等を取り扱う職員の配置状況などを確認し、様々な視点から評価を行い、最優秀者と優秀者を選出しました。

（3）評価の結果

評価委員会議の評価に基づき、次のとおり選定し、平成28年3月28日に、委員長により、水戸市長へ報告いたしました。

ア 代表企業

参加者数	60社
うち辞退数	7社
技術提案書提出数	53社
代表企業選出者数	5社
代表企業選出者名	D-029 株式会社 伊東豊雄建築設計事務所
	D-034 (仮称) 安井建築設計事務所・柳澤孝彦 + TAK建築研究所設計共同企業体
	D-054 (仮称) 高橋一平建築事務所+富士工業設計共同企業体
	D-056 (仮称) teco・能作建築設計事務所 設計共同企業体
	D-068 (仮称) 吉村・浅子設計共同企業体
最優秀者	D-029 株式会社 伊東豊雄建築設計事務所
優秀者	D-056 (仮称) teco・能作建築設計事務所 設計共同企業体

イ 市内企業

参加者数	3社
うち辞退数	0社
技術提案書提出数	3社
市内企業選出者数	2社
市内企業選出者名	S-011 株式会社エイプラス・デザイン
	S-012 株式会社横須賀満夫建築設計事務所
最優秀者	S-012 株式会社横須賀満夫建築設計事務所
優秀者	S-011 株式会社エイプラス・デザイン

3 評価委員会議講評について

本プロポーザルの二次評価における評価委員会議の講評は、次のとおりです。

水戸市新たな市民会館等施設建築物設計候補者評価委員会議講評

1 総評

本プロポーザルは、水戸市にとって、中心市街地の空洞化対策と商店街の活性化のため、市民の皆さんの大きな期待を背負ったプロジェクトです。つまり、単なる劇場施設に対する単独の提案ではなく、まちづくりとしての意味が強く、設計者には劇場建築の設計技術力だけではなく、地域性やまちの文脈を深く理解する力が求められました。こうした問題意識から、説明会では新市民会館に対する思いを、市長をはじめ、地域の方々にも語っていただくことが実現し、本プロポーザルには、その思いをくんだ提案が多く提出されたことに心から感謝いたします。今回、参加資格においても、多くの優れた提案を求めるため、設計実績に係る資格要件を設けなかったことは、同規模程度の文化施設の公募型プロポーザルと比べて、多くの参加者を得る結果となりました。

そうしたなか、代表企業として、2次評価に進んだ5つの案は、それぞれにまちづくりとしての公共空間としての明快な提案がなされていたもので、どの案も甲乙つけがたい特徴的なものでした。今回、本プロポーザルにおいて、競争的対話方式を導入しましたが、ほとんどの代表企業選出者が、限られた期間にも関わらず、誠実に対応していただき、評価委員の提案に対する理解をより深める結果となりました。公開プレゼンテーションを経て、評価委員会では予定時間を超過して、劇場としての実現性と公共空間のバランス、まちの顔としてのあり方について、粘り強い議論が交わされました。

そうした結果、

代表企業最優秀者 D-029 株式会社 伊東豊雄建築設計事務所、
代表企業優秀者 D-056 (仮称) teco・能作建築設計事務所 設計共同企業体
市内企業最優秀者 S-012 株式会社横須賀満夫建築設計事務所
市内企業優秀者 S-011 株式会社エイプラス・デザイン を選出しました。

以下、選出理由につきまして順に述べます。

2 代表企業選出者

(1) 最優秀者 D-029 株式会社 伊東豊雄建築設計事務所

全体的にバランスよく、一つひとつの提案がしっかりと考えられていました。やぐら状の木組みが建物をつつむとともに、市民活動を支える大きな公共空間「やぐら広場」を実現しており、自然環境に配慮したイメージを演出し、水戸藩城下町にふさわしいという点において、高い評価につながりました。このやぐら広場は、水戸芸術館の広場に向けて開かれるとともに、国道50号と広場をつなぐような形でL字型に設けられており、広場がまちとつながる劇場として、整備基本計画の基本方針である「人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点」や、実施要領に記載している「誰もが快適に過ごせ、居心地よく、何度も行ってみたいくなるサードプレイスの形成」の実現に向け、非常に効果的であると判断されました。

大ホールは、バランスがとれた計画になっており、柔軟な運営を可能にするために、様々な舞台形式の利用が想定されていることに加え、ショップ・商業施設・会議室・スタジオなど、人が常時使う空間が国道50号側の商店街に対してまちの顔をつくっており、人の賑わいがまちにあふれ出すように計画されていることも高く評価される結果となりました。

競争的対話方式で指摘した建物の防火区画や木材の調達方法、コストと構造の関係についても、適切に分析・検討されており、総合的に判断した結果、評価委員会議として最優秀者に選定することがふさわしいとの結論に達しました。

(2) 優秀者 D-056 (仮称) teco・能作建築設計事務所 設計共同企業体

ホール空間である『みとまち堂』と、その周りを形成する『民活ビル』、様々な市民活動を創出し、市民の意見が集約する『ミトマチラボ』を設置するという考えは、単に施設をつくるという発想にとどまらず、まちづくりまで踏み込んだ提案がなされていました。特に設計期間中にミトマチラボという拠点を市内に設けて、まちの人と話し合っただけで設計する姿勢は素晴らしく、開かれた公共建築の実現に期待ができたことから、高い評価を受けました。

また、水戸のまちの景観に配慮した外観や、一階に多くの機能を集中させて、利便性を向上させるなどの取組も高く評価されましたが、未来の水戸の町を牽引する具体的な外観イメージが足りない点や広がりのある自由空間がやや少なく、大ホール、展示ホールとバックスペースとの動線計画、再開発事業におけるショップ棟の高層階部分の市場性、展示ホールの無空調など、運営面での課題も感じられ、最優秀者の方が上回ると評価いたしました。

最終的には、最優秀者に僅差で及びませんでしたでしたが、水戸の歴史や、中心市街地の現状を考慮した内容であり、限られた時間の中で、水戸のまちを分析し、“悩んだら、水戸のまちへ戻る”ということばに、水戸市への思いと、本プロポーザルに対する強い熱意を感じました。設計者としての将来の可能性を十分感じさせる内容であり、この経験を踏まえて、更なる飛躍を心より期待しております。

※ここからは、整理番号順に記載します。

(3) D-034 安井建築設計事務所・柳澤孝彦+TAK建築研究所設計共同企業体

各施設がコンパクトな平面にまとまり、緑豊かな屋外広場を生み出していることは評価されましたが、その反面、各層の空間において、窮屈さが見られました。また競争的対話方式で指摘した「建物の外観や全体の構成における提案の特色」についての説明に強い主張が見られず、「まち回廊」というネットワークの中に建物を位置付けておりますが、この建物に「まち回廊」がどう反映されているのか、分かりにくい印象を受けました。同様に、「屋外緑化の実現性への考え方」につきましても、緑化に配慮した外部空間の改善は見られたものの、ランニングコスト、メンテナンス等に対する具体的な提案が乏しいという印象を受けました。競争的対話方式の指摘に対する進捗や更なる提案の有無が、最優秀者や優秀者との評価に差が生じる結果となりました。

全体的な印象として、整備基本計画を熟知し、にぎわいづくりのための様々な工夫が盛り込まれている点などは、高く評価されましたので、今後の御活躍に期待しております。

(4) D-054 (仮称) 高橋一平建築事務所+富士工業設計共同企業体

複数の機能を統合したオープンな屋根付き広場については、一階部分にできるだけ多くの人を集めようとする意図が高く評価されました。広場を囲む立体的な空間の提案に、期待を持たせたものの、最終的に実現する上で、解決すべき課題がいくつか懸念され、空間の実現性に向けた計画、技術的な完成度がより高く示されていれば、更なる高評価につながったといえます。また、金属板による大きな壁面でびょうぶ形で構成する外観が、まちの景観に対して大きなインパクトを与えるものの、周辺との調和、近隣の住民に与える影響について、問題とする議論があり、最優秀者や優秀者に及びませんでした。

一方、競争的対話方式に対し大きな進捗が見られ、限られた時間での解決に向けた誠意や前向きな姿勢に、設計者としての将来性を感じました。今後の御活躍に期待しております。

(5) D-068 (仮称) 吉村・浅子設計共同企業体

水戸芸術館と京成百貨店とを結ぶ「みと街道」という提案について、にぎわいづくりや、稼働していないホールをブラックボックスにしないという強いメッセージを発するとともに、施設全体をものづくりの場として位置づける提案は、新しい劇場施設のあり方を強調するもので、画期的な印象を受けました。

その一方で、この提案は、現在、水戸市が目指す、魅力ある公演と大規模イベント等を積極的に誘致するなど稼働率を高め、大ホールを最大限活用するという、ホール本来のあり方と矛盾する提案であることも評価委員会議では議論となりました。

また、水戸芸術館からのアプローチにおける段差については、開かれた施設としてのあり方の観点から、疑問視する意見も示されました。1階部分に3つのホールが入っているため、共用部分が狭く、総合的に判断した結果、最優秀者や優秀者に及びませんでした。

しかし、搬入作業スペースに対して、大幅な改善点が見られるなどの競争的対話方式の指摘事項に真摯に対応した姿勢や、コストを抑えた設計内容になっている点は、高く評価されました。今後の御活躍に期待しております。

3 市内企業選出者

(1) 最優秀者 S-012 株式会社横須賀満夫建築設計事務所

代表企業を支える地元企業としての役割として、地域特性や地域資源の活用に関する具体的な提案があり、代表企業の木材活用の提案内容と親和性が高い内容となっている点が、高く評価されました。また、設計共同企業体による実績や、これまで培ってきた業務上のネットワークなど、総合的に判断した結果、評価委員会議として最優秀者に選定することがふさわしいとの結論に達しました。

(2) 優秀者 S-011 株式会社エイプラス・デザイン

地域性を熟知しており、まちづくりに対する意欲が感じられる提案でした。また、地域でのワークショップやヒアリングによりまちの声を広く集約している点や、これまでのまちづくりの活動実績は評価されました。その一方、“モール”と呼ばれる公共空間のイメージが抽象的であり、地域特性や地域資源の活用について、より具体的な提案があった最優秀者案には及びませんでした。

4 おわりに

本プロポーザルの評価に当たり、評価委員会議として、水戸市長をはじめ、関係者から直接、新市民会館の整備に対する思いや考えを聞くとともに、この事業に対する将来的な目標や、期待することなどを数回にわたり、協議いたしました。

また、本プロポーザルへの参加に当たっては、より深く事業の趣旨を理解していただくために、市の協力によりシンポジウムを開催し、約 200 名の方に参加していただくとともに、代表企業による公開プレゼンテーション・ヒアリングにおいても、定員 200 名を上回る方々に来場していただくなど、新市民会館整備への関心の高さをうかがえました。

今後、水戸市におかれましては、本評価委員会議の評価結果に基づき、選定された代表企業と市内企業の最優秀者を本事業の設計者として泉町 1 丁目北地区市街地再開発準備組合（以下「準備組合」という。）に推薦していただき、設計者と準備組合と市が連携を図りながら、提案された技術やアイデアを十分に生かすとともに、市民の皆様の意見を十分に反映させながら、新市民会館の整備を推進されるよう御祈念いたします。

また、本施設の運営につきましても、充実した組織体制づくりとともに、事業内容の検討を図り、より具体的な施設計画に反映されますよう、設計と並行して進められることを切に願います。

最後に、本プロポーザルに参加していただいた設計事務所の皆様におかれましては、多大なる熱意を持って技術提案に取り組んでいただいたことに、心より敬意を表しますとともに、今後の皆様の更なる御発展と御活躍をお祈りいたしております。

水戸市新たな市民会館等施設建築物設計候補者評価委員会議

委員長 筑波大学芸術系准教授
貝島 桃代

副委員長 日本大学理工学部建築学科教授
本杉 省三

委員 政策研究大学院大学文化政策プログラムディレクター教授
垣内 恵美子

委員 静岡文化芸術大学名誉教授
古瀬 敏

委員 三井住友信託銀行不動産コンサルティング部審議役環境不動産推進チーム長
伊藤 雅人